

令和6年1月30日

クビアカツヤカミキリに対する取り組み改善への提案書

江戸川区長
齊藤 猛 殿

TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校
野生動物保護専攻2年一同

掲題の件につきまして、早急に対応をしていただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

記

I. 提案

- ① クビアカツヤカミキリ被害対象となる樹木の本数及び所在等の管理
- ② 区民へのクビアカツヤカミキリの情報の配信

II. 趣旨

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリが江戸川区の周辺区である江東区、墨田区、葛飾区で発見されました。現在江戸川区内では発見されていないものの、荒川や新川等の川沿いに桜並木を有しているため、いつ入ってきても不思議ではない状況下にあります。そのため、江戸川区に侵入してくる前に対策を講じる必要があると考えます。しかし、以前区の担当者にお聞きしたところ、サクラやウメ等のバラ科樹木の管理及び区民へのクビアカツヤカミキリに関する知識の普及・啓発への取り組みの効果が十分に発揮されていないように感じられました。そこで、クビアカツヤカミキリに対する取り組みについて上記の2点を要望いたします。

III. 詳細

① 被害対象となる樹木の本数及び所在等の管理

私たちが今夏の調査で緑地や公園等のサクラ 4,261 本を調べたところ、クビアカツヤカミキリの被害は見られませんでした。しかし、これらは大きな公園や親水緑道に限った話で

あり、小さな緑地や公園等は未確認です。この調査結果を森林総合研究所の専門家へお伝えしたところ、大きな空間に限らず、学校のサクラや小さな空き地にも侵入する可能性は十分にあり得るとのお話を頂きました。また、江戸川区は他市町村区と川で区切られています。が、むしろ、昆虫は風通しの良い川沿いを移動経路として利用するため、川沿いの桜並木はもちろん、内陸部にもたやすく侵入してしまう可能性があります。

それらを踏まえて、大小限らず各公園や緑地、親水緑道等の被害対象となるバラ科樹木を座標や識別番号等で管理することを提案させていただきます。特に座標で一本一本個体識別を行うと、正確に識別番号を振り分けられると共に、地図アプリ等で所在を簡単に明らかにすることが可能です。また、すぐに多くの人に共有を行えるため、万が一被害木を発見した場合、各地域との素早い連携も可能となります。この座標による管理は森林総合研究所の専門家が調査を行う際に用いる方法のため、信頼性も高い方法となっています。

② 市民へのクビアカツヤカミキリの情報の配信

クビアカツヤカミキリは飛来してくるだけではなく、トラックや船の貨物などに乗って侵入してくると考えられています。それにより分布域の予測が難しく、気づいて時にはすでに被害が発生しているという状況が被害地で起こっています。また、4千本以上もある被害対象木を専門家や行政のみで日常的に管理することは時間等のコストが非常にかかってしまいます。そのため、現状最も有効な防除方法は、私たち区民がクビアカツヤカミキリへの正しい知識を持ち、より多くの目で街中の被害対象木を監視することだと思います。

主な内容としましては、知識の普及及び啓発を目的としたパンフレットやインターネットサイトの作成と、区民や自治体を対象としたクビアカツヤカミキリの生体情報や調査方法を知ってもらうための講演会の実施です。区民の方々の中に浸透させるには、より素早く、そして手軽にアクセスできる情報媒体を用意する必要があります。その点を見ると、パンフレットは市役所や公民館、警察署などに設置でき、多くの方の目に触れる機会を作ることができます。また、インターネットサイトはスマートフォンからいつでもどこでもアクセスできるため、市役所等に出向くことなく情報を入手することができます。講演会に関しては、パンフレットやインターネットサイトでクビアカツヤカミキリに対して興味を持った方を対象に専門的な情報を提供する場として機能することで、クビアカツヤカミキリ防除の即戦力の排出を可能にします。

以上